

報告日 令和 8年3月18日(水)	報告者 吉武惇二
分科会名 古文書を読む会	開催テーマ：
開催日時 令和 8年3月12日(木) 午前 10:00 ~ 12:00	開催場所 金沢公会堂第2会議室
参加人数 男性8名 女性2名 合計10名(含む聴講者3名、欠席者3名)	
<p>本日の講義は、(1)「藤原鎌足の墓発見、(2)藤原不比等と基皇子の死、(3)残された藤原一族、とりわけ政権の女性指導者が抱いた怨霊の恐怖、の3点であった。</p> <p>(1) 1934年に阿武山古墳から発見された被葬者は当時の有力者とされていたが、そのごの調査により死亡直前に天智天皇から送られたとみられる大織冠の一部が同じ石棺から見つかったことからほぼ藤原鎌足に間違いないとされるに至った。鎌足は天智天皇の最側近且つ藤原氏繁栄の功労者であった。</p> <p>(2) 鎌足の二男とされている藤原不比等は自身は黒幕に徹したが、「黒作懸佩刀の由緒書」からも伺えるように、その後の藤原氏の繁栄と日本律令国家建設を同時に遂行・実現した大政治家であった。</p> <p>(3) 藤原氏が苦境に陥った際には当時の藤原一族の血を引く政権の女性指導者たちは、ライバル撲滅に伴う犠牲者の怨霊を恐れ、それから免れるため食封という多額の寄付を法隆寺を中心に行ったと推察されている。</p>	
<p>次回予定 令和8年4月9日(木) 10:00~12:00</p> <p>場 所：金沢公会堂第2会議室</p> <p>テーマ：(1) 令外の官 (2) 和歌の前の平等 (3) 古今集 六歌仙の不思議</p>	